



八重桜三世代で鑑賞中

那珂市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は茨城県那珂市です。那珂支店長が那珂市長 先崎 光氏にお話を伺いました。

那珂市は「筑波経済月報」第38号(2016年9月)本コーナーにてご紹介させていただきました。改めまして、那珂市の魅力や特徴、今後の展望についてお聞かせください。

■ “当たり前”を払拭し、新たな挑戦へ

2019年2月、私は那珂市の第5代となる市長に就任いたしました。それ以前は瓜連町(現那珂市)議会議員、那珂市議会議員、茨城県議会議員を歴任し、様々な角度から市政に関わって参りました。しかし、就任後は「市長」という責任の重さを痛感し、これまで以上の覚悟を持って、まちづくりに取り組んでおります。

議員時代から、那珂市は最高のポテンシャルを持ったまちだと感じており、今もその想いは変わりません。その昔、万葉集や常陸国風土記には、「那珂(那賀)」という地名が登場し、先人たちは那珂台地で穏やかな暮らしを営んできました。

現在では県都水戸市のほか、発展性のあるひた

ちなか市や東海村などと隣接するほか、県北地域の玄関口である常磐自動車道那珂ICを有するなど、地理的条件に恵まれています。

また、市内には常陸二ノ宮として名高い静神社をはじめ、戦国時代の面影を残す額田城址や量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所、茨城県植物園など、国内外に誇れる資源も多数所在しております。

ところが、市職員をはじめ市民の多くは、この素晴らしいまちの資源を“当たり前にあるもの”と感じてしまう傾向にあると感じております。

そこで私は、先人たちの遺産と現在の資源を最大限に活かすための“挑戦項目”を示した「可能性への挑戦-那珂ビジョン-」を就任3ヵ月後に策定しました。

私は挑戦への熱い想いを託すため、全職員を対象とした説明会を開催したほか、市民との意見交換会「輪い・和い座談会」でも丁寧に説明するなど、実現に向け着実に歩みを進めております。



那珂市長 先崎光氏



副市長 宮本俊美氏



企画部 部長 大森信之氏



筑波銀行 那珂支店長 市村剛

■ 「居を構えるなら、那珂市」

那珂市は水戸市と比較すると地価も安く、また、市街化区域の活発な開発により、“ベッドタウン”という位置付けを確立しております。

市内にはJR水郡線の駅が9つもあるほか、国道沿いには大手チェーン店が多数立地し、通勤や買い物にも大変便利です。そのため、近年では転入者も多く、社会動態も増加傾向にあり、「居を構えるなら、那珂市」という嬉しい言葉も聞こえて参ります。

また、首都圏在住者を対象にした「移住・農業体験ツアー」では、毎回、多くの方にご参加いただいております。那珂市は天候が穏やかで農作物も育ちやすく、近年では若手の新規就農への関心も高まっており、大きな手応えを感じています。

これは、自然と市街地が調和した“いい具合に田舎のまち”をアピールした「いい那珂暮らし」のプロモーション効果であると言えます。



農業体験交流会の様子
ブロッコリーとキャベツの苗を植える参加者

しかし、那珂市への移住に一定の需要があるにもかかわらず、現在、希望者にご提供できる住宅が少ないというジレンマに直面しております。

市内にある空き家の多くは市街化調整区域内に建っており、第三者が新築や改築を行うことは法的に制限があります。今後、職員と解決の糸口を探りつつ、「那珂市空き家バンク」への登録数を増やして対応していく予定です。

■ 四季を通じた誘客に注力

那珂市では、四季を通じて様々なまちの表情に出会うことができます。春に行われる静峰ふるさと公園の「八重桜まつり」をはじめ、夏には那珂総合公園の「ひまわりフェスティバル」、秋には一の関親水公園の「月見の会」、冬には古徳沼の「白鳥飛来」を楽しむことができます。

「市の花」に指定されているひまわりは、“太陽の花”とも言われています。昨年、市内の農家の方が「ひまわりフェスティバル以外の時期も、那珂市のひまわりを楽しんでもらいたい」という思いから、ビニールハウスで小さなひまわりを1輪植えた卓上鉢を栽培しました。

このひまわり鉢を東京・銀座にある茨城県のアンテナショップ「IBARAKI sense」で試験販売したところ、“ひまわりの鉢”という意外性が好評を呼び、多くの方にご購入いただきました。今後も地域資源を活かした様々なアイデアを具現化し、ビジネスチャンスを広げたいと考えております。

また、静神社に隣接し、「日本さくら名所100選」にも選ばれている静峰ふるさと公園は、桜の時期以外の集客が課題となっております。今年4月から迎え入れる地域おこし協力隊を中心に情報発信やイベントなどを行い、年間を通じた集客に注力していく予定です。

■ 那珂IC周辺地域の活性化による県北振興

私は、那珂IC周辺地域の地理的優位性を鑑みると、無限の可能性が広がっていると確信しております。仮に、IC周辺地域の開発を促進することができれば、市内だけでなく、常陸太田市や常陸大宮市、大子町など県北地域における交流人口の増加、ひいては、県北地域全体の活性化に寄与できると考えております。

また、那珂ICの北西部には、「茨城県植物園」や「茨城県鳥獣センター」、ゴルフ場など魅力ある施設も多数立地しております。

特に、茨城県植物園は、大井川知事が県北地域における交流人口増の核となる施設と考えているようで、隣接する「県民の森」とあわせて、大規模なりニューアルを予定しているとのこと。

これは、那珂市が県から大きな期待をお寄せいただいている証だと思っております。私たちはそのご期待に応えるべく、来年度から、那珂ICの北西部のアクティビティゾーンの活性化に向け、様々な事業の検討に着手する予定です。

今後も県とのつながりを大切にしながら、関係機関との調整を図り、職員とともに尽力して参ります。



茨城県植物園の大噴水

■ 課税免除や電気料金補助による企業誘致の推進

茨城県が所有する工業団地の価格が2018年2月に改定され、市内に立地する「那珂西部工業団地」では、1㎡当たりの売却価格が20,600円から13,000円に値下げされました。

加えて、那珂市では、市内に新工場などを建設する事業者に対して、固定資産税の課税免除措置を行っており、2~3年前と比較すると、現在、問い合わせ数は格段に増加しております。

また、2018年10月、市内に植物工場(屋内型野菜栽培工場)が新たに稼動しました。植物工場のランニングコストは、電気料金が大きな割合を占めると聞いております。

「電源立地地域」である那珂市では、市内の事業者が電気料金の補助を受けられるため、植物工場の運営事業者にとって、那珂市への立地は大きなメリットになります。

今後は、植物工場のさらなる集積を図り、雇用拡大や農業など地域産業の活性化につなげたいと考えております。そのためにも、シティプロモーションにより力を入れ、那珂市で事業を営むメリットを多方面に伝えていきたいと考えております。

■ 世界に誇る研究所と連携した新産業創出の模索

植物工場の東側には、世界に誇る核融合研究施設「量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所」が立地しております。

今年4月には、核融合エネルギーの早期実現に向けた日本と欧州の共同プロジェクト「ITER」の研究炉JT-60SAが始動予定です。

それに伴い、世界各国から那珂市に足を運ぶ関係者の数は、大幅な増加が見込まれます。今後、この経済効果をしっかりと受け止められる体制を整えるとともに、同研究所の研究成果と地場産業のマッチングを図ることで、新たな産業創出への可能性を模索したいと考えております。

■ 市内外に活力をもたらす幹線道路の整備

茨城港常陸那珂港区周辺と県北地域を結ぶ「茨城北部幹線道路」は、計画上、那珂市向山地区内で常磐自動車道と交差する予定です。

この交差部分にインターチェンジを整備できれば、国道や都市計画道路など基幹道路の整備促進が見込まれるほか、物流の効率化による県北地域の産業活性化にもつながると考えております。

私は要望、陳情のために中央省庁へ足を運ぶ度、全国から寄せられた陳情書の山に驚くと同時に、「まずは、議題をテーブルの上に乗せなければ」と奮起し、多方面の調整に励んでいます。

今後も、トップだからこそできる行動力を強みに、職員をはじめ、県や国の力を上手に引き出しながら、那珂市の発展に全力を尽くしていきたいと考えております。

筑波銀行へ期待することをお聞かせください。

■ 「可能性への挑戦」に向けた支援

筑波銀行には、毎年、那珂市が主催する「いい那珂暮らし住まいづくりフェア」や「アグリビジネスセミナー」におけるブースの出展、スポーツを通じた連携事業などにお力添えをいただいております、大変感謝しております。

また、支店長をはじめとする役職員の方から、那珂市のまちづくりに対する熱いご助言をいただく機会も多いことから、「筑波銀行は、なくてはならない存在」と強く感じております。

今後も、那珂市のより良い発展、そして、私たちが掲げる「可能性への挑戦」のために、筑波銀行のフットワークの良さとネットワークの広さを活用させていただけると幸いです。

取材日：2020年1月24日
写真提供：那珂市